

東京2020 ホストタウン ボランティア養成講座

6/29 (土)
9:30~17:15

実施報告書

I. 開催概要

開催日程

2019年6月29日(土) 9:30~17:15

開催目的

東京2020に向けて、ホストタウンの現状や外国人選手団や海外の観光客向けのボランティア活動に必要な知識や心構えを学びます。

開催場所

神田外語大学 2-201 教室

主催・協力

主催：神田外語大学ボランティアセンター・スポーツ通訳ボランティア推進室
協力：オリンピック・パラリンピック等経済界協議会

東京2020
ホストタウン
ボランティア養成講座

東京2020に向けて、ホストタウンの現状や外国人選手団や海外の観光客向けのボランティア活動に必要な知識や心構えを学びます。

開催日程
6月29日(土)
9:30~17:15

開催場所
神田外語大学
2-201教室

参加定員
限定120名

受講料
3,000円

主催 神田外語大学ボランティアセンター・スポーツ通訳ボランティア推進室
協力 オリンピック・パラリンピック等経済界協議会

II. 参加者内訳

申込者数/当日参加者数

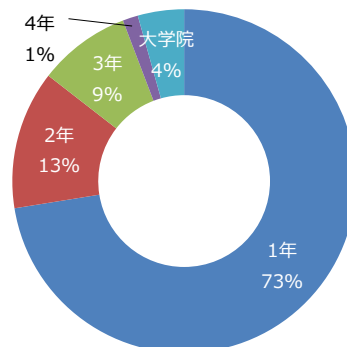
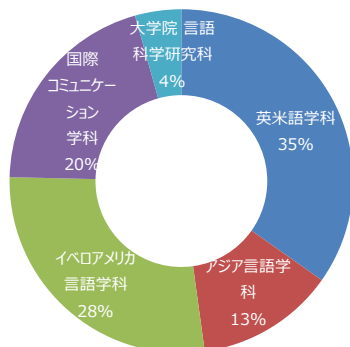
項目	人数
申込者数 (受講料支払済の者)	69名
当日参加数	64名

「学科別」参加者数内訳

学科	参加者数
英米語学科	24名
アジア言語学科	9名
イペロアメリカ言語学科	19名
国際コミュニケーション学科	14名
大学院 言語科学研究科	3名

「学年別」参加者数内訳

学年	参加者数
1年	50名
2年	9名
3年	6名
4年	1名
大学院	3名



Ⅲ. 当日の様子



▲集合写真



▲オリンピック・パラリンピックの歴史と教育(真田久)



▲ホスピタリティマインドと異文化コミュニケーション(江上いずみ)



▲ボランティア活動から考える人間力(長尾滉)



▲ボランティア活動から考える人間力(眞壁ひとみ)



▲2020年に向けたホストタウンの取組みについて(勝野美江)



▲ホストタウン・事前キャンプの事例から学ぶ!(坪田充史)



▲東京2020大会に向けた町田市への取組みについて(松尾哲平)₂



▲千田健太氏のロンドンオリンピック男子フルール団体銀メダル

IV. 参加者の受講後レポートより

- オリンピックに繋がるイベントや活動が、身近な所で常に選手だけでなくその地域住民のためにも行われていた事に初めて気付かされた。日本とホストタウンにやってくる国々との関係を良くし、お互いの国をより活発化させてくれるものである事が分かった。
(中略) 自分の大学内で、今回のような多くのボランティアに繋がる分野についての有名な方々に分かりやすく自分が知らなかった事を講義してもらえた事を嬉しく思い、2020 東京五輪のサポーターとして日本のみならず、世界中の人々がオリンピックという舞台上、スポーツを楽しむ事はもちろんのこと、文化と言語の壁を感じず交流を楽しんでもらえるようなサポートをしたいと思えた。(英米語学科・1年)

- 今回の講座を通しておもてなしや臨機応変に対応できる力の大切さを学んだ。(中略) 私は今まで語学を使うことにあまり積極的ではなく、間違えてしまうことに抵抗があり使えてこなかった。しかし先輩方のお話を聞いて間違えることは恥ずかしいことではないし、間違えて成長できると思えた。朴先生の授業でもあったが一步前に進む勇気が、自分を変えることができる方法だと改めて思った。私は今都市ボランティアとして東京オリンピックに参加することが決まった。その時には積極的に自分で考えて動き、臨機応変に対応して成長できるようになりたい。また今後ホストタウンのボランティア募集があった際には是非応募し、参加したい。(英米語学科・2年)

- 歴史から具体的な活動など、隅々までオリンピックの詳細を知ることができた講座でした。特に印象に残ったものが江上先生のおもてなし・立ち振る舞いに関わる話で、自分は今までボランティア活動は清掃や募金といった作業的なものが中心だったため、行動をする本人の振る舞いがその国民の振る舞いになる、という点にこのボランティアにおける個人の責任の重大さを感じました。また、町田市の取り組みの講義も非常に参考になりました。これまで具体的なホストタウンボランティアの活動内容や流れがあまりわかっていなかったので、ボランティア活動の大まかな概要について理解できたと思っています。貴重なお時間をいただきありがとうございました。(イペロアメリカ言語学科・1年)

- オリンピック・パラリンピックについて、政府の目線から おもてなしの目線から 地域の目線から 選手の目線からなど、様々な視点から学ぶことができ、大変価値のあるセミナーだと感じました。ホストタウンのボランティアに参加することで、二度とない経験とチャンス、多くの人の手助けができると改めて感じ、大会に携われる最後の機会を逃したくないと感じました。(アジア言語学科・2年)

- ラグビーW杯、オリンピックの大会ボランティアに参加しますが、このホストタウンのボランティアに参加する上で、選手のみならず、その地域の住民も第一に考えて行動しないといけないということを学んだ。今後は言語運用とボランティアをうまく組み合わせ、言語能力を高め、ボランティアで得られることをたくさん学んでいきたい。いずれ眞壁さんや長尾さんのように尊敬される存在になりたい。(アジア言語学科・3年)

- まずは、自分の語学力と挑戦する力をさらに向上させたいと感じた。自分がこの大学で学んだことを最大限に活かし、今後のボランティアや社会に貢献したいと考える。また、人生に一度あるかないかというオリンピック、パラリンピックに少しでも携わり、自分の糧にしたいと強く思った。そして、鳥肌が立つような経験を肌で感じ、これからより成長したい。(国際コミュニケーション学科・3年)